

特集 園芸作物の新品種

園芸作物の新品種

地域におけるオリジナル品種の育成は、産地競争力の観点から重要である。イチゴでは、近年、特産県において特徴ある品種が育成されている。花きにおいても、地域限定品種の栽培による有利販売が期待される。当センターでも、こうした観点からイチゴやキクのオリジナル品種を育成してきた。

一方、民間種苗会社や独立行政法人による育種が主である花壇苗や果樹では、本県での栽培に適した有望品種をいち早く導入することを目指している。そこで、これら園芸作物の新品種について、最近の話題を紹介する。

吉田 晋弥（農産園芸部）
(問い合わせ先 電話：0790-47-2424)

最近注目されているブドウ品種の特性

黒色の「ブラックビート」は着色に優れ盆前収穫が可能である。緑色の「シャインマスカット」は高糖度で皮ごと食べることができ、赤色の「クイーンニーナ」は糖度が高く食味良好で、いずれの品種とも大粒である。

内 容

本県では、種なし栽培に適し、着色が優れて食味良好な、あるいは盆前収穫が可能な大粒系品種が消費者から求められている。そこで、有望な新品種の特性を明らかにした。

黒色の「ブラックビート」は、「藤稔」や「ピオーネ」より着色や酸含量の減少が早く（図1）、8月初めには収穫可能となる。しかし、糖度の上昇はやや遅れるので、確認して収穫する（図2）。完全に種なしにするには開花前のストレプトマイシン処理を要する（データ略）。

緑色の「シャインマスカット」は、9月上旬に成熟期に達し、糖度は高く、酸含量の減少も早い。

幼木期の果粒は比較的小さく、果面に「かすり症」（褐色の斑点）が発生しやすいが、数年後には大粒となり障害も減少する。果皮は薄く、樹上や冷蔵中の日持ちが良い。

赤色の「クイーンニーナ」は、果皮の着色はやや遅いが、糖度は高い。成熟期は9月上旬で、樹勢はやや弱く、着色ムラがみられることがあるが、15g以上の大粒となる。

今後の方針

各品種の品質を高めるための生産技術や早期品種更新技術を確立する。

水田 泰徳（農産園芸部）
(問い合わせ先 電話：0790-47-2424)

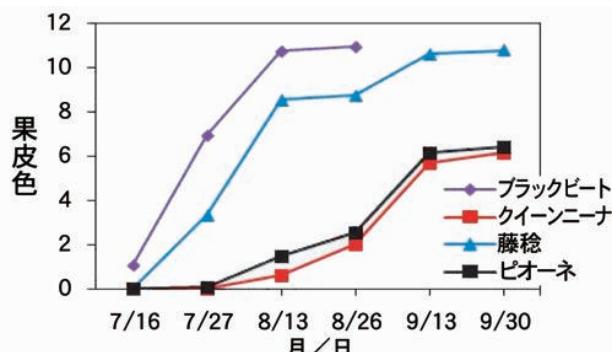


図1 果皮色(カラーチャート値)の推移

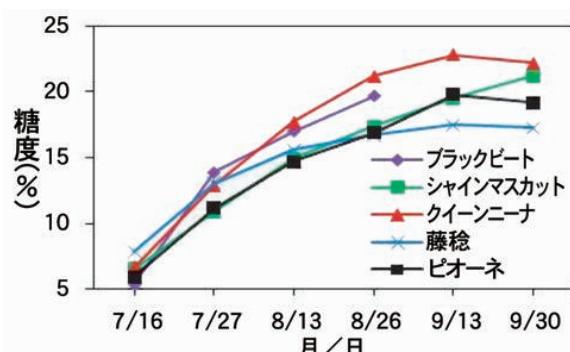


図2 果汁の糖度の推移